



「相互理解」 ～「鯉のぼり」の話から～

4月、桜の見頃を終えるあたりに、あきた病院療育指導室の指導員さんから「今年も鯉のぼりを泳がせたから、見に行ってみてね」とお話をいただきました。

(あきた病院の「鯉のぼり」の様子が、令和4年4月24日付け、秋田さきがけ新聞で紹介されました。)

昨年度も、本コーナーで四季折々の環境整備について載せていますが、コロナ禍で校外活動が少なくなった昨今において、季節を楽しめる工夫は大変ありがたい限りです。

(本コーナー#8・17参照)

平成15年、国立療養所秋田病院の廃止に伴い、本分教室があきた病院内に開設されて以降、療育指導室とはずっと連携を図ってきました。その中で教育における多様な活動の大切さを理解していただき、病棟の行事に誘っていただいたり、学習場所を提供していただいたりしています。同時に、学校で主催するゲストティーチャー等を招いた行事等には、児童生徒以外の患者さんに参加していただけてきました。

冒頭の「鯉のぼりへのお誘い」も、背景には教育への温かい理解があります。

相互理解に基づく連携を図っていただけることに感謝しつつ、引き続き卒業後の生活の質の向上に資する、教育活動の展開に努めていきたいと考えています。



【あきた病院正面玄関前の鯉のぼり】

【旧 国立療養所秋田病院と
引っ越しの様子 (H15.11)】

* あきた病院のホームページから、病院全景や病院から臨む夕日の動画(空撮)を見ることができます。